

外国語科目群

初修外国語

卒業に必要な初修外国語の単位規定や予備登録規定などについては、「全学共通科目履修の手引き」を参照して下さい。また成績評価の詳しい基準は各科目ごとに授業中に指示します。

フランス語 – French –

フランス語は、西欧の知的世界の共通語として用いられてきた輝かしい文化的伝統を持ち、現在も英語に次ぐ国際語です。また学問・教養のための外国語としては世界各国で最も広く学ばれていて、ヨーロッパでは知識人でフランス語のできない人はほとんどいません。したがって、国連やユネスコなどの国際機関・国際会議で常に公用語の一つになっています。また、フランス語は、スイス・ベルギー・カナダのほか、アフリカ諸国のほぼ半数、中近東・東南アジアなどの多くの国々でも、公用語あるいは最もよく通じる外国語です。

このように国際舞台上で重要なフランス語ですが、その学習のために、学生の皆さんのニーズの多様化に応える、さまざまなコースが用意されています。1回生向けでは標準コースの①「クラス別コース」とインテンシブ・コースの②「8Hコース」、2回生向けでは、標準コースの③「中級」とインテンシブ・コースの④「6Hコース」があります。さらに、中級まで終えた人のために、より高度な⑤「上級」も用意されています。すべてのコースで、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4つの能力を総合的に開発するように配慮され、インテンシブ・コース②④はもとより、標準コース①においても、すべてのクラスにネイティブ・スピーカーの授業が設けられています。

それぞれの到達目標は、以下のとおりです。

◎標準コース①と③の組み合わせでは、週2回の授業を2年間で、

「読む」能力：辞書を引きながらフランス語の文章をある程度のスピードで読むことができます。

「書く」能力：簡単なフランス語の手紙文程度の文章を書くことができます。

「話す」と「聞く」能力：日常会話の受け答えがある程度できます。

◎インテンシブ・コースの②と④の組み合わせでは、1回生週4回、2回生週3回の授業で、

「読む」能力：辞書を引きながらフランス語の文章をかなりのスピードで読むことができます。

「書く」能力：フランス語の手紙文程度の文章をかなり書くことができます。

「話す」と「聞く」能力：日常会話の受け答えが非常にスムーズにできます。

◎⑤「上級」では、上記を超えるフランス語運用能力が獲得でき、フランス文化全般についての理解もある程度深まります。

以上のようなフランス語運用能力の養成は、学問の場にいる者にふさわしい学術的言語技能の涵養に資することを最終目標にして行われます。

◆全回生対象（初級） ※再履修者クラスを含みます

フランス語 I A・B（文法）

フランス語 I A・B（演習）

フランス語 I（8Hコース）

◆学部2回生以上対象（中・上級）

フランス語 II A・B

フランス語 II A・B（演習）

フランス語 II（6Hコース）

フランス語 III A・B